

## 第6回漢字小委員会が出された意見の整理

- ①字種選定基準の構築について→「論点3」の「2」で検討
- ②用語「情報機器」について（←諮問の理由：パソコンや携帯電話などの情報機器）  
⇒今期は基本的に「情報機器」で統一（←携帯電話も同様に扱う、普及率の問題）
- ③JIS漢字の扱いについて→「論点1」の「3」、及び「総合的な漢字政策」で検討  
⇒重み付けの問題、言語生活（常用漢字表）との関係で極めて重要  
⇒これまでの議論では直接は踏み込まないという方向（この方向を見直すか）  
⇒漢字政策の立場から情報機器の機能（仮名漢字変換）に対して提言するか
- ④準常用漢字、特別漢字について→「論点3」の「1-②」で検討

- ⑤漢字表の必要性⇔マイナス面：交ぜ書き、漢字使用の制限的側面（←表の性格）  
⇒国民の言語生活の円滑化、読み書き能力の目標（学校教育との密接な関係）  
⇒共通した「ものさし」としての役割（小説、正書法、専門用語等との関係）  
⇒表現（単語あるいはもう少し長い言語単位）の平易化への寄与  
⇒日本語の中で漢字の担っている役割を明確化する  
⇒表外漢字字体表に示された認識（基本的に今期も継承?）..

ワープロ等に搭載されているJIS漢字は、第1水準、第2水準合わせて6355字あり、常用漢字表に掲げる1945字の3倍強となっている。ワープロ等の普及によって、これら多数の漢字が簡単に打ち出せるようになった現在、常用漢字表の存在意義がなくなったのではないかという見方もある。

しかし、このことは一般の社会生活における漢字使用の目安を定めている常用漢字表の意義を損なうものではない。むしろ、簡単に漢字が打ち出されることによって漢字の多用化傾向が強まる中では、「一般の社会生活で用いる場合の、効率的で共通性の高い漢字を収め、分かりやすく通じやすい文章を書き表すための漢字使用の目安（「常用漢字表」答申前文）」となる常用漢字表の意義は、かえって高まっていると考えるべきである。

## ⑥常用漢字表改定の必要性

- ⇒理由1：文字言語を読み取ることの重要性が一層増大している？  
2：文字による正確で円滑な伝達を目的とした施策が必要？  
3：日本語の表記システム（漢字仮名交じり文）に由来？  
4：情報化に伴う漢字処理の問題（人間、情報機器）？  
5：情報機器の普及がもたらしている国民の言語生活の変化？

- ⑦手書きの問題について→「論点3」の「5」で検討  
⇒信念の問題（⇔情報機器と無縁な人たちの存在）、読むことと書くことの乖離の問題、手書きと情報機器の共通点（漢字使用の目安）、情報量の問題等